

(様式1)

大 学 名	中央大学	学 問 分 野	情報、電気、電子
専 攻 等 名	理工学研究科情報工学専攻 / 電気電子情報通信工学専攻 / 数学専攻 / 経営システム工学専攻 / 中央大学研究開発機構		
拠点のプログラム名称	電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ		
拠点リーダー氏名	辻井 重男	所属部局・職	理工学部 教授
プログラムの概要	電子社会システムの安全性、信頼性向上に対する総合的研究を推進し、安心できる健全な電子社会の発展に貢献する。		
拠点形成の目的・必要性	電子社会がいかなる普遍的理念を掲げ、どのように発展していくにせよ、その社会が高い信頼性と安全性をもつ強固な基盤の上に築かれることが必須条件となる。本学では、このような認識の下に、情報工学専攻を含む複数の専攻の教員や博士後期課程学生等が中核となり、外部資金によって運営される本学独自の研究開発機構においてプロジェクトチームを結成し、高度な暗号理論を中心とする情報セキュリティについて多くの研究成果を挙げてきた。また信頼性の高いネットワークに対しても先端的研究を重ね、高い評価を受けている。こうした実績を踏まえ、上記関連分野の研究者に統計学等の研究者を加えて、電子社会システムの安全性、信頼性向上に対する総合的研究を推進し、安心できる健全な電子社会の発展に寄与することが本拠点形成の目的である。		
研究拠点形成実施計画	本拠点の研究対象は、総論(電子社会における安全学の構築)と、電子社会システム層(第 層)(電子行政システム、電子ビジネスシステム、金融情報システム、地理情報システム等)、高信頼ネットワーク層(第 層)(セキュリティ・ポリシー、システム監査・ヒューマンエラー、電子認証・公証システム、高機能・高信頼ネットワーク構成等)、要素技術層(第 層)(楕円・超楕円暗号の設計法、暗号の証明可能安全性、乱数の統計的検定、DNA情報による個人認証、量子暗号、電磁波漏洩と可視化)の3階層からなっている。 上に掲げた研究対象の多くは既に本学において研究を重ねてきたテーマであるが、拠点形成にあたってはこれらの成果を発展させつつ、上記の階層構造の下に連携させ統合化し、電子社会の強固な基盤を構築するという使命感をもって研究を推進する。		
教育実施計画	情報セキュリティ分野の人材育成に対して以下のように実施していく計画である。 (1) 産業界との交流・社会人博士後期課程学生(企業等に在籍のまま入学)の積極的受け入れ (2) COEを中核とし理工学研究科及び研究開発機構との共同的研究を通じての人材育成 (3) 理工学研究科における情報セキュリティ副専攻の設置による人材育成 (4) 全学的組織として設置を目指している独立研究科「電子社会システム研究科」において情報セキュリティコースを設けて広い視野からの情報セキュリティ分野の人材育成 (5) 工学と数学、工学と人文・社会学との学際的研究を通じての深い専門性と広い視野をもつ人材の育成 情報セキュリティの教育体制はパデュー大学、カーネギーメロン大学で始動している程度である。COEを中核として既存の組織との連携により情報セキュリティ分野の人材育成に貢献する。		

人文・社会科学的視点からの助言・評価

